

自然観察 NOW

NO : 23

野幌森林公園自然情報

発行：2017年9月9日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

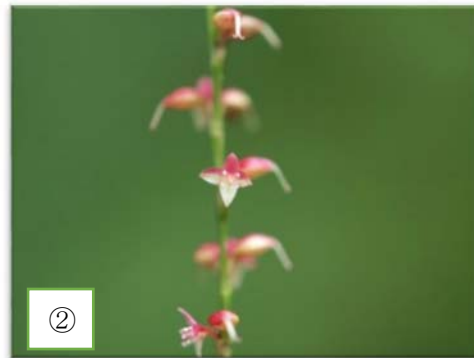
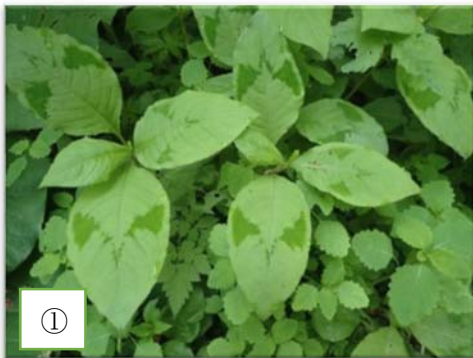
ホームページ <http://voluran.com/>

初秋の森を歩こう

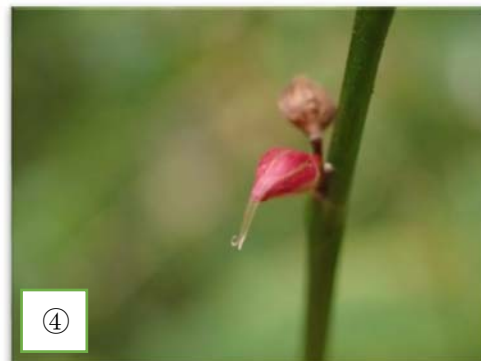
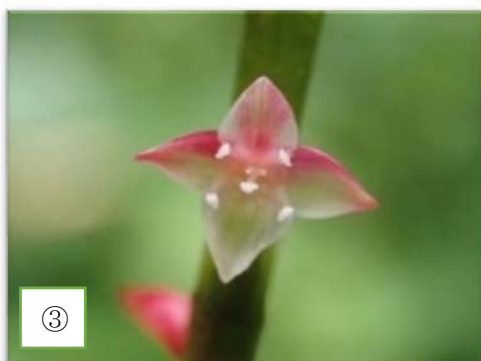
暑かったのか涼しかったのかよく実感できないうちに9月。秋のさわやかさを待って結婚式が多くなる時期のようです。またこの月には「敬老の日」もあります。老いも若きも祝い事があるというのは楽しいことです。本号ではこうした出来事に関連ある名を冠した花を2, 3取り上げてみました。

ミズヒキ (タデ科)

初夏に八の字のはん紋をつけた葉が現れます (①)。そして夏になると名前の由来ともなる紅白の花が咲き始めます。茎頂や葉腋から花穂を出し、まばらに花をつけます (②)。



近づいてよく見ると4枚の花被片の上は赤、下が白、左右の2枚は上側が赤、下側が白という組み合わせ (③)。上から見ると赤、下から見ると白、つまり紅白で水引に似ているのでこの名がついたということです。花が終わり、果実となると雌しべの花柱の先が2つに裂け、先端が鉤のようにまがります (④)。種子がひつつき虫となって遠くに運ばれるのです。



大沢口でもこの過程を数ヶ月にわたって楽しむことができます。群生しているミズヒキ、お隣同士重なるとどんな形に見えるでしょう。蝶結び？それとも結びきり？

水引草風がむすびてゆきにけり 遠藤正年

水引の結び方



蝶結び：「何度繰り返してもよい」お祝い事に。歳暮、内祝（出産、新築等）など

結びきり：「繰り返したくない」場合に。結婚、内祝（全快祝い）など

ツルニンジン（キキョウ科） 別名ジイソブ

つる性の多年草。地中の根が人参に似ているのでこの名がついたようです。別名のジイソブのソブは長野県の方言で「そばかす」の意。花冠の内側の紫褐色の斑点がそばかすを連想させたのでしょう。近似種バアソブより大型というのでジイソブといわれるようです。4枚の葉、ふっくらした蕾、そして鐘の形をした美しい紫色の花は愛くるしく、われわれの眼を楽しませてくれます。



オオウバユリ（ユリ科）

名前の由来は、花の盛りに下の葉（歯）がとれることから姥に見立てたことによります。

今頃のオオウバユリは花が終わり、緑色の果実が天に向かって立っています。ここにいたるまでに実生の場合は7年余り、栄養繁殖の場合で4年余りかかるといわれています*。花が咲くまでにユリ根は十分な栄養を供給しますので、花が咲き終わると根もすっかり細り、2度と花を咲かせることはありません。あとは果実ひとつに500個あまりという膨大な数の実をつけ、それを風に運んでもらい、次の世代に命をつなぎます。そして万が一のために、小さなユリ根を残しています。「子孫を必ず残す」という意気込みが感じられます。野幌森林公園ではこうした根を見ることは難しいのですが、動物が掘り起こしたり、台風で根こそぎ倒れていたりして、見られる場合があります。

*オオウバユリの実生から結実までの様子は自然ふれあい交流館発行『みずほ第7号』（2009.7.20）に詳しい。

植物の名前の由来がわれわれの日常生活に密着していたり、見かけによるものだったり、興味をそえられるところです。

（写真提供 野幌森林公園自然ふれあい交流館）

今後の観察会の予定

10月12日（木）10:00～14:30「秋の森の匂いをかごう」（共催）集合：開拓の村入口

10月15日（日）10:00～12:00「ワオーの森観察会」（主催）集合：春香山登山口

10月22日（日）10:00～14:30「晩秋の森観察会志文別コース」（主催）集合：自然ふれあい交流館

（文責 早坂慶子）